

後から渡れば熱くない

子の神大黒天の火渡り

(我孫子 10月28日)

法螺貝を吹き鳴らし、紫、黒、黄の法衣姿の山伏十三人が登場すると、二百人ほどの観衆は静まり、雨中のページェントの始まりに固唾をのむ。観音経と般若心経が大音声で唱和され、煩惱や悪霊を追い払うという斧がふるわれ、弓が射られ、剣で切り払う。そしてヒバの炉壇に点火。

下火になると炉がならされ、真ん中に火渡りの道が出来る。火生三昧と言うそうだが、まだ熱い。二、三度深呼吸した山伏が、エイツと気合いを掛けて渡ってゆく。がんばれ。いよいよ観衆の番。雨が降っている。これも一本五百円で頂いた南無大黒福寿尊天というお札を挟んだ竹を持って火渡りである。わずか七、八メートルか。山伏に気合いを掛けられ、渡れば抱きかかえてくれる。これで柴燈護摩火渡り初体験。踏みならされ火の道は冷たくなっていた。



炎は立木より高く燃え上がる

子の神大黒天(ねのかみだいこくてん)ネズミを使徒とする大黒天をまつり、腰下の疾患に霊験があるといわれている。鳥居をくぐってお参りするから神社である。しかし、本堂は真言宗豊山派の延寿院で、神仏混淆(しんぶつこんこう)ということになる。火渡り記念にもらったのは家運隆昌・福徳円満の「福の神」。財布に入れておけば必ず幸運をもたらすという。我孫子市寿二の二七

逆井漫歩38

平成13年11月



④13人の山伏登場⑤ヒバの炉壇は準備OK⑥点火!